

## 紀要第二号の発刊にあたって

学長代行 森 永 敏 博

ここに四條畷学園大学リハビリテーション学部紀要第2号をお届けできる運びとなりました。

昨年、創刊号を発刊するにあたっては学部創設初年度ということもあって、全教員に対してそれまでの研究業績で論文にまとめているものを出来るだけ投稿いただくよう依頼を致しました。その結果、原著論文4編、短報4編、報告4編が収録され充実した内容にまとめることが出来ました。

第二号は、このような事情から収録論文数が減少するのはやむを得ないと思っていましたが、編集委員会の尽力もあって原著2編、短報2編、海外事情2編、公開講座での講演2編そして随想1編を収録することが出来ました。

理学療法学や作業療法学などの実学はこれまでの大学教育ではあまり重視されることはありませんでした。しかし「直接社会生活に役立つ学問」としての実学が大学教育に取り入れられる傾向が強まり、医療技術系の大学・学部がどんどん新設されるようになりました。この領域は、これまで経験主義に基づいた技術の伝承であり、「アート」と言われる領域にあったわけです。残念ながら科学的検証を伴った治療法や効果の判定に関する研究の積み重ねが不足してきたことは否定できません。しかし医療の質の向上、先端医療の進歩、医療の安全性や医療経済など医療を取り巻く環境は劇的に変化してまいりました。そんな中でEBM（Evidence Based Medicine）すなわち科学的論拠に基づいた医療・医学としての理学療法や作業療法を確立することが治療法として生き残りをかけた命題と言えます。

本学はまだ開学して二年目です。新設学部の学年進行中に伴う特有の雑事、学生指導に多忙を極める日常の中、さらに基礎医学系の研究室や施設、臨床施設のない単科大学という必ずしも恵まれた研究環境とはいえない中で教員にとって論文をまとめることは大抵の努力では出来ません。しかし益々の研鑽を重ね紀要の充実を図ることも「サイエンス」としての理学療法や作業療法の発展に寄与することになると確信しています。